

公立病院でがん患者の緩和ケアチームの一員として活動する僧侶がいる。浄土真宗本願寺派延命寺(広島市佐伯区三宅)の徳永道隆住職(43)。「僧侶としてもっと社会に貢献できることはないか」とボランティアで県立広島病院(南区宇品神田)を訪れて1年。医療スタッフと意見交換しながら終末期患者との対話を試みている。

延命寺・徳永さん(広島) 県立広島病院でボランティア

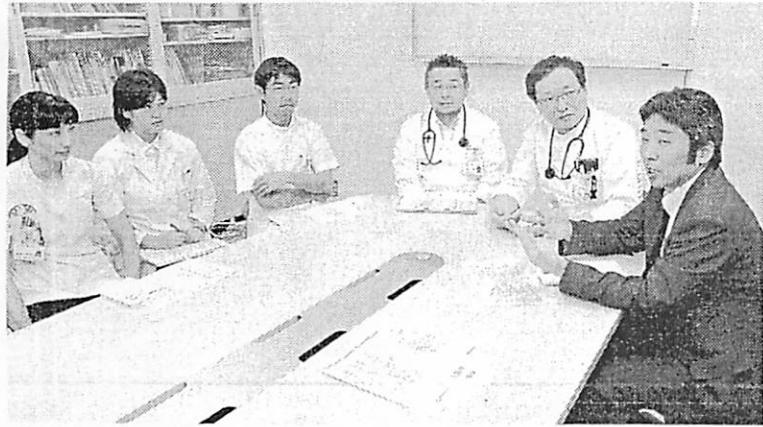
緩和ケアチームに僧侶

「私たちは皆、悩みの中で生きています。苦悩に苦悩を重ねて出した結論は将来につながる何らかの芽が含まれているものです」

毎週水曜、緩和ケア病棟のカンファレンス(症例検討会)で徳永さんが発言する。終末期患者への接し方に迷う看護師に掛けた言葉。同席する緩和ケア科や精神科の医師、理学療法士、薬剤師もじっと聞き入る。

昨年10月からカンファレンスに加わる徳永さんの役割は医療スタッフとの意見交換。緩和ケア科

終末期患者と心の対話



本家さん(右から2人目)らと緩和ケアをめくって意見を出し合う徳永さん(右端)＝県立広島病院 (撮影・天島智則)

主任部長の本家好文さん(62)は「日本では緩和ケアの現場に宗教者が入るのはまだ少なく、まずはスタッフとの信頼づくり」と説明する。「スタッフも自ら施すケアにはナイーブになりがちで徳永さんの話は心の支えになるでしょう」

「自分も緩和ケアで役に立てないか」と広島県内の病院を当たったが、葬儀のイメージが強い僧侶を受け入れる所はなかった。そんな折、本途切れても安らいだ気持ちで病室にいられた。そうした関係が彼の心も楽にしたのでは」と振り返る。戸惑っていた患者

寄り添う姿勢

徳永さんは教誨師だった父親の影響で、寺を継いだ後も矯正施設などに足を運んできた。緩和ケアに関心を深めたのは3年前。鹿児島で先駆的な活動をしている本願寺派僧侶長倉伯博さんの講演を聴いたのがきっかけだった。医療の現場に通う長倉さんは理想とする僧侶像と重なった。

心に残ったのが花見の席での話。「来年はこの桜も見られないのね」とつぶやく患者に長倉さんは「私もしぎに行くからね」と声を掛けたという。「きれいごとを言うのでなく相手に寄り添おうとする姿勢を感じた」

気持ち安らぐ

ある日、「門徒でもない自分になぜ、かまってい

道しるべ

- ◆ 蘭教部慈光会月例会 7日午後2時、広島市中区猫屋町の光道会館。来生寺(呉市)・松浦美佐子師の「無常の人生」。
- ◆ 広島三育学院クリスマス・チャリティ・コンサート 9日午後7時、三原市久井町和草のくい文化センター。14日午後6時20分、広島市中区大手町1丁目目の県民文化センター1。同学院 ☎0847(33)0311。
- 1. ◆ 観音寺坐禅会 10日午後2時(初心者1時半)、広島市佐伯区坪井町の観音寺。茶話会、法話も。
- ◆ 伴侶を亡くされた方々の分かちあいの集い「和(なごみ)」 10日午後2時、広島市中区八丁堀の超覚寺。
- ◆ 本願寺広島別院日曜仏教講座 11日午前9時、広島市中区寺町の本願寺広島
- 7時、15日午前6時半、10時、午後1時半、7時、16日午前6時半、10時、本願寺広島別院。講師は安養寺(兵庫県尼崎市)・足利孝之師。
- ◆ 明窓友の会月例会 13日午前10時半、広島市安芸区船越南3丁目の安芸区民文化センター1。吉川さん ☎082(845)5969。
- ◆ 身近な方をなくした悲しみを分かち合う会「ひろの会」 17日午後2時、広島市東区東蟹屋町の東区総合福祉センター1。参加費200円。円光寺 ☎082(221)5285。
- ◆ インド・ヨリ瞑想会 17日午後2時、廿日市市宮島町の大聖院。15000円。ヨリ行者フラスアドさん ☎082(2223)7075。
- ◆ 歎異抄講話 17日午後2時半、広島市南区皆実町1丁目ひろしま健康会館。講師は松田正典・広島大名堂教授。
- ◆ 本願寺広島別院日曜仏教講座